

題字・山下太郎名誉教授

静岡大学文理・人文学部同窓会

発行人 ■鈴木基之

編集人 ■岳委員会

〒422-8529 静岡市駿河区大谷836 静岡大学共通教育A棟

Tel.054-238-5148 Fax.054-238-5148

Web Site:<http://www.gaku.org>

## 〈事務局への連絡〉

月曜日から金曜日の 10:00 ~ 16:00 にご連絡下さい。  
(休日、時間外はメール及び FAX にてご連絡下されば、後で  
対応いたします) 担当:土屋

## 静岡大学法科大学院の近況

法科大学院長 大江泰一郎

静大法科大学院はいま創設 2 年目。1 年生と 2 年生の計 69 人が学んでいます。今年は 9 月に新司法試験の合格者発表がありました。最初の新司法試験の結果が出たということで新聞紙上などでも話題を呼び、静大はどうかとご心配になった方もいらっしゃるかもしれませんが、設置が 1 年遅れ、くわえて初年度に 2 年課程に入学した学生がいなかったため、本校は今年度はまだ修了生(新司法試験受験資格者)を出していません。本校の最初の結果が出るのは、修了(卒業)生を出した年、つまり再来年(2008 年)の秋ということになります。新司法試験では、法科大学院修了後 5 年の間に 3 回まで受験資格が認められていますが、年々受験者(未合格者)が溜まってゆき、年を追うごとに全体の合格率も下がることになりますので、今年はまだ結果が出ていないとはいえ、私ども教員一同も気を引き締めて教育に臨んでいるところです。

そういう事情もあって正直なところ、来年度向け入試に影響がでるかもしれないという懸念も実はいささかあったのですが、18 年度(入学定員 30 名のところ志願者 229 名、当初倍率 7.6 倍)にはやや及ばなかったとはいえ、206 名(6.8 倍)という多くの志願者を得ることができ取り敢えずまっとうしているところです。全国的には法科大学院制度出発時の「合格率 8 割」の神話がくずれ志願者が大きく減少してきていること、法科大学院によっては定員割れの状況も見られるようになってきていることからすると、これは注目してよい数字ということが出来ます。結果がまだ出ていないのに志願者が集まる理由は別途正確に分析する必要がありますが、施設の充実度(法廷教室の完備、自習室個室の確保など)や教育面への評価などがクチコミ(ネットコミ?)で受験生の間にある程度広がっていると考えてもおそらくそう間違いではないように思われます。施設の充実については、静岡大学法科大学院支援協会を通じて、同窓会にもたいへんお世話になっておりますが、この機会をお借りして、厚く御礼申し上げます。

今年度、教育面では 2 年生の教育科目がスタートし、なかでも法科大学院生が法律実務を現場で学ぶ機会となっている「エクスターンシップ」が 8 ~ 9 月実施され、静岡県弁護士会、県庁、静岡市役所、(株)スズキ、(株)ヤマハの皆様にはたいへんお世話になりました。院生たちは法曹の仕事へのモチベーションを大きくふくらませることができたようで、私ども教員の側でも、院生が現場の実務に触れることの重要な意味を今さらながら実感しているところです。実習の場を提供して下さりまた懇切なご指導を賜りました方々に、深く御礼申し上げます次第です。

法科大学院はいま来年度向け入試の取り組みに余念がありませんが、それと同時に来年度に向けて自習室の拡充など施設の改善にも引き続き力を入れております。施設・設備面ではそのほか判例等データ・ベースの確保や、また法科大学院内奨学金の維持、実務家教員のレベルアップ経費など、財政関連の課題も少なくありません。同窓会の皆様はたのいっそうのご援助とご協力を今後ともよろしくお願い致します。

なお、昨年度より 2 カ年計画で取り組んでまいりました文科省の法科大学院形成支援プログラムの総まとめとして、静岡大学法科大学院を中心に新潟大学法科大学院・北海学園大学法科大学院のご協力もえて、来年 2 月 18 日(日)に国際シンポジウム「地域

の国際化と法曹の役割—在住外国人とのリーガル・コミュニケーションのあり方」(仮題)を開催致します(会場は東静岡・グランシップ)。あらためてご案内はさせていただきます

ですが、ご来場を賜ればまことに幸甚に存じます。

## 法科大学院の近況とご寄附のお願い

法科大学院支援協会事務局長 根本 猛

同窓会の皆様はじめ地域各界の皆様のご支援のおかげで、平成 17 年 4 月に開校した静岡大学法科大学院は、開校 2 年目の半ばをすぎたところです。全国の法科大学院の相当数が志願者集めに苦勞するなか、静岡大学法科大学院は、開校 3 年目となる平成 19 年度入学試験においても定員 30 名の 7 倍近い 206 名の志願者を確保しました。(なお、前年度は 229 名、初年度は 97 名でした)

法科大学院の教育は順調に進行しています。この 9 月には、新司法試験の初めての合格発表があり、各法科大学院で明暗を分けましたが、静岡大学法科大学院の第 1 期生が修了する再来年度には皆様に良い報告ができるよう、学生の教育に全力を挙げております。

さて、支援協会では、法科大学院の教育支援・奨学制度を中心に、平成 16 年末から寄附

活動を開始し、平成 22 年度までの 5 年間で、7,000 万円を集める(今後は概ね毎年 1,000 万円)ことを目標に取り組んでいます。文理・人文同窓会からも 530 万円のご寄附をいただき、個々の会員の皆様からも貴いお志を頂戴しています。寄附金は、施設の整備、奨学制度の維持、実務家教員の研修などに使わせていただいています。学生たちのなかには経済的に恵まれない者もいて、奨学制度は大変感謝されています。

同窓会誌「岳」の前号には、「寄附のお願い」のしおりを同封させていただきました。同窓会会員の皆様には、ご寄附を検討願いたく、また、すでにご寄附を頂戴した方にも引き続きご支援いただきますようお願い申し上げます。「寄附のお願い」のしおりをご希望の方は、同窓会事務局までご一報下さい。

## 奨学金制度のためのご寄附のお願い

2006 年から、静岡大学人文学部・大学院人文社会科学部研究科では、卒業生からの寄附金を原資として、学部及び大学院学生に対する独自の奨学金制度を創設しました。

この奨学金制度は、学業成績が優秀であり、向学心の旺盛な学生に対して、いっそうの勉学の奨励をはかることを目的とし、毎年度、5 名以内の学生に対し、1 人当り 20 万円の奨学金を給付するものです。

過日、本年度の募集をしましたところ、多数の学生からの応募があり、厳正な審査を経て 5 名の学生に奨学金を給付することができました。

私どもとしましては、学生からたいへん喜ばれ、かつ勉学の奨励に大きく寄与している、この奨学金制度をできるだけ長期にわたって存続・維持させた

いと願っています。

つきましては、皆さまには、この奨学金制度の趣旨をご理解いただき、ご寄附をお願いする次第です。

本学部及び本大学院の学生に対する教育上のご支援を心よりお願い申し上げます。

2006 年 12 月

静岡大学人文学部長・大学院

人文社会科学部研究科長 松田 純

### 寄 附 要 綱

- 1 寄附の趣旨  
人文学部及び大学院人文社会科学部研究科の学生の奨学基金のため
- 2 寄附金募集の目標  
2016 年までに、1,000 万円
- 3 寄附の方法  
1 口 5,000 円とし、できるだけ多くのご協力をお願いします。  
同封の郵便振替用紙にて必要事項をご記入の上、お振り込みください。
- 4 この寄附金は、所得税法上の寄附金控除の対象となります。

\*問い合わせ先 静岡大学人文学部総務係  
Tel 054-238-4483  
Fax 054-237-3612

## 終身会費未納の会員への「岳」の送付について

同窓会費(終身会費 2 万円)の収入が伸びない中、岳の印刷費と郵送費で年間 380 万円掛かっております。

同窓会の財政も年々厳しくなってきました。本年 5 月 14 日の役員会において、終身会費未納の方については、岳の送付を希望する方で購読料及び郵送費を納めていただいた方にのみ送付することになり、購読料及び郵送費として、3 年間分 3 千円を納めていただいた方について、向こう 3 年間、計 6 回分の岳をお送りすることになりました。

そこで、本年 7 月 28 日発行の岳 45 号を送付する際に、「岳の購読料及び郵送費納

入制度」のご案内を同封させていただきましたが、その際に同封すべき郵便局の払込取扱票を間違えてしまいました。

今回、あらためて、岳 46 号に同封して払込取扱票を送りますので、終身会費未納の方で岳の購読を希望される方は、通信欄に「購読料及び送料 ¥3,000」の記載のある払込取扱票を使用して、3 千円を納めてください。

○終身会費未納の方で、「購読料及び送料 ¥3,000」の払い込みのない方には、次回から、岳の送付は止めさせていただきます。

## 松田人文学部長を迎えて

### 第17回静岡大学悟寮会総会開催 文理7数 深見 謙次

同窓会活動に長年多大なる貢献をされ、別けても仰秀寮史ドキュメントの制作には、献身的に尽力されて、今(06)年5月17日に逝去された井上隆道先輩(文理3仏)の御霊に黙禱を捧げ開会した。

ときは'06年11月4日(土)、会場はリニューアルオープンしたマイホテル竜宮(静岡市葵区)の富士の間である。

悟寮会は文理学部時代の仰秀寮悟寮に在籍した者で構成し、昭和50年に竹本章氏(文理5法)によって創立、第17回目を迎えた。竹本会長は開会挨拶で、「最早、大岩ノスタルジアを超えて、人生享受の総括」を提唱した。

東は八王子、西は奈良に至る全国各地から、大岩の地で醸成された絆の力をして、30名が駿府に馳せた。その一方で、案内に対する無回答者はどんな思いなのだろうか。

松田純人文学部長は悟寮会員でもあり、今回は来賓としての挨拶で、大学を取り巻く諸情勢について解説され、錦上花を添えられた。

式次第はこの来賓挨拶に先立って、医学講演会が講師の時間の都合で、第一部として開催された。趣向を凝らした企画は今回に限ったことではなく、悟寮会の伝統である。欠席者の返信メッセージ欄には、健康問題を付記されることが多くなってきた昨今であるが、その欠席者程係わりある「生活習慣病」をテーマとした。循環器科医師で静岡市駿河区の開業医院、三神美和院長を招請した。

新幹線3人掛のうちの2人は、腫瘍・脳血管・心臓いずれかの疾患が起因で死に至る、というどっきりした切り口で始まり、スライドを使いながら、

栄養素の時系列摂取比率(生活習慣病発生の背景)、メタボリックシンドローム診断基準(項目数値)、死因のシェアとその意味、肉体運動の大切さ、食事の取り方、医師との上手な付き合い方など、明快な講義を受講し、講師の著作「養生エッセイ」も配布された。

肥満のバロメーターであるへその廻りの計り方やサプリメントなど続発する質問にも、丁寧な解答を得て終講した。受講者は即実践するならば、長命ならぬQOLが高い長寿が保証されるコンテンツで、ただ「次会も悟寮会に出席する志気と気力」が担保となるのは当然だ。

先回の悟寮会から1ヶ月半後の一昨(04)年10月23日、中越地震が発生した。その渦中で逞しく生き抜く石川洋一氏(文理4法)から、体験談を交えた力強い乾杯の発声で、予告30年未達の東海地震を厄払いした。

最大のイベント、悟寮会恒例のトークバトル(近況と主張)が華々しく展開された後、フィナーレは橋本益男氏(文理9数)のコンダクトによる寮歌高唱で終宴となり、副会長の杉山卓之輔氏(文理5化)が感動をテーマとする、軽妙な語り口で総括して閉会した。

当日は228万人の観客が動員されて、静岡市街で繰り広げられた大道芸W杯開催期の中日で、恰好の見物土産となった。因に大道芸ワールドカップは毎年11月初めの数日間、静岡市で開催されている。

所で次会は、井上隆道さんを語る先輩、久し振りで旧交を温める人、そして常連、また悟寮と御縁ある人、みんな大挙して参加し、更なる盛会を期待したい。

(悟寮会事務局長)



## 「ワンツウ会」を立ち上げ!!

### 東海三県在住の静大文理学部1・2回生が集まる

発起人代表 文理1経 市村平一郎  
同 文理2経 河合 俊孝

平成18年5月10日午後5時から、上記のような珍しい会が名古屋市の名古屋駅近くにある居酒屋「たい信」で発足した。

名付けて「ワンツウ会」という。

メンバーは、大学から愛知・岐阜・三重の東海三県に就職したつわもの達である。職種は、種々雑多であったが、殆どの人々が昭和33年9月に立ち上げた静大文理学部同窓会名古屋支部(現在の東海支部の前身)に関与してきた者達だ。

判明したメンバーは、以下のとおり。

一回生11名(浅野晴義、大谷宗一、小汐保、石井一陽、市村平一郎、勝野公明、小長谷九一郎、杉本三郎、中村幸夫、武藤雄治、山岡伊織)、二回生(飯田和夫、内山賢治、亀井松寿、河合俊孝、杉山文雄、新田(旧姓伊藤)瑛子、吉永信夫)7名、特別会員(神戸在住の二回生・永田(旧姓杉本)信子、四回生の石井(旧姓鈴木)和子)2名の合計20名。

発起人等がこれらの人々に呼びかけ、そのうち、たまたま所用のあった4名(浅野、石井夫妻、杉本)を除き、

16名も出席したのであるから、その出席率の高いことはいうまでもないだろう。

とにかく、メンバーの中には、大学卒業以来50年振りに会う、といった人もいたので、近況報告では、数人の人々が「あれっ」と思う位、延々と長い話を続けられたため、後の多くの人は、簡単な報告に留め、詳細は次回に持ち越しとなるハプニングさえ生じた程度であった。

出席者の近況報告の話を総合すると、学生・寮生時代の裏話を含めた回顧談、就職後の苦労話などから始まって、現役引退後の話へと話題が転換し、それぞれ、何らかの病を背負っているものの、思い思いに趣味などを生かし、且つ、社会的活動を含んだ諸活動に励んでいて、有意義な生活を営んでいることが報告されたのである。

その元気な姿は、誠に立派といっても過言ではないだろう、確かに、年齢的には、全員、かなりの高い層に属しているが、勢いは、



## 平成18年度東海地区「魁寮の会」開催

文理7経 水谷達仁

今年度から年2回の開催が決定されていた恒例の東海地区「魁寮の会」が去る平成18年6月1日(木)名古屋市において早々と開催されました。当日は旧制静高の市村平一郎先輩も特別会員としてご出席いただき総勢12名の元魁寮生が参集しました。

会は河合会長(文理2)の挨拶、乾杯で始まり会員相互の近況報告、時の話題などで和気藹々のうちに進められました。特に河合会長が趣味として取り組んでいるサギ草栽培については話が盛り上がり、そのプロ並以上の手腕に参加者一同全く圧倒され感服しました。

また、今後「魁寮の会」がより盛会に継続されていくためには、より多くの元魁寮生の参加を求め、皆さんから期待され、待ち望まれるような会にしなければ駄目だと

現在の若者達には、決して負けていないと痛感したのは、発起人を含め出席者全員の率直な感想だった。

本会は、本年の11月上旬に、再度開くことが決定されている。

本会に参加を希望する人は、こばまない方針なので、浜松・静岡市方面からも参加される方も出てくるものと期待している。とはいえ、それ程永続性のある会合ではないことは、お互いに自覚している。生きている間に、やるべきことをきちんとやり、息抜きの一助となれば幸いと、発起人などは思っている。

簡単な報告であるが、写真を添付するので、誰が誰であるかを思い浮かべて頂きたいと思う。

以上、報告する次第である。

(文責 河合俊孝)

云う忌憚のない意見交換も行われました。最後に今年度2回目の会合を11月下旬に開催することを申し合わせ、お開きとなりました。

(出席者)

亀井松壽(文理2)、河合俊孝(文理2)、内山賢治(文理2)、中村幸夫(文理2)、大谷勝則(文理4)、松浦晃次(文理4)、水谷達仁(文理7)、加藤秀臣(文理8)、大杉勝次(文理10)、和田孝宣(文理12)、鈴木徹(文理13)市村平一郎(旧制静高)



## 2006年「元気会」 憲法テーマで開催

静岡大学学生新聞会「元気会」会長 上田克己(文理9回卒)

学生新聞会OB&OGの集まり「元気会」は、2006年5月27日に32名の参加で焼津市のかんぼの宿焼津で開催しました。

今回の「元気会」は1952年の創刊号から1990年の249号まで39年間に発行した学生新聞のCD-R化の

完成を祝うとともに、昨今論議が盛んな「憲法問題」をCD-Rから検証を試みる目的で開催しました。

総会では上田会長が、創刊号から1966年の150号に至る16年間に主に憲法問題に触れた元文理学部学長鈴木安蔵先生の寄稿文23編「静岡

大学学生新聞にみる鈴木安蔵と憲法問題」を紹介し、日本国憲法公布 60 周年を記念して 2007 年春に公開される鈴木安蔵を中心とした憲法草案秘話を描く映画「日本の青空」の製作に、「元気会」も協力したいと提案しました。

続いて山下 CD-R 編纂委員会委員長が「学生新聞の歴史と CD-R 化」について報告（後述）をするとともに、学生新聞を長年印刷いただいた（株）長田文化堂の長田進社長に感謝状と記念品を贈呈して謝意を表明しました。

さらに元新聞会顧問の三橋良士明人文学部教授の講演「最近の憲法論議に思う」では、政府が推し進める憲法改定の危険な内容を解明して、現行憲法を守る重大性が訴えられました。

最後に「日本の青空」の製作を進めている特別参加のシネマ・ワン北村代表から、映画製作への協力と普及の訴えがあって総会は終わりました。

その後懇親会に移りましたが、新聞会の顧問でもあった鈴木安蔵先生の業績を偲ぶ話題と学生新聞を長年印刷いただいた（株）長田文化堂の借財がどのように推移したかの話題が中心となりました。

なお今回の「元気会」には、前回まで把握できていなかった 1984 年に学生新聞の 2 度目の復刊に携わった編集者の 1 人齊藤徹さんが参加し、1990 年に休刊となるまで学生新聞発行にたずさわった編集者も把握でき、創刊号から 39 年間の学生新聞の会員を一本に繋ぐことができ盛り上がりしました。

しかし残念ながら 1978 年から 1980 年に 224 号から 229 号を発行した編集者は、今もって把握することができないでいます。もし関係者がいましたら、「元気会」事務局の丹羽英夫 (TEL 0587-95-2031) まで連絡をお願いします。

#### 山下 CD-R 編纂委員会委員長の報告

1)2004 年 11 月に会員に呼びかけた「電子化に伴う諸費用の寄付のお願い」には、51 名（含む夫婦会員 5 名）が寄付に協力し、文理・人文同窓会の助成金と合わせて CD-R を完成。

2)CD-R は以下の諸関係団体に 11 セットを贈呈。

国立国会図書館  
静岡大学付属図書館  
静岡大学付属図書館浜松分室  
静岡県立図書館  
静岡市立図書館  
静岡大学文理・人文学部同窓会  
静岡大学学生生活協同組合  
静岡新聞社図書館  
（株）長田文化堂

三橋良士明人文学部教授（元顧問）  
3) 電子化に伴う寄付に協力した会員 51 名に CD-R46 セットを贈呈。

4) 「元気会」会員や「岳」NO44 号の「CD-R 完成 ご希望の方に頒布します」訴えに申し込みのした同窓会会員、「静岡大学学生新聞にみる鈴木安蔵と憲法問題」に関心をいさぐ関係者など 31 名に頒布して総数 88 セットを活用。

多方面に贈呈・頒布した CD-R のなかには、記事の解析を始めた関係者もあって役割を果たし始めている。

総会後の 9 月 9 日に開催した幹事会では、次期「元気会」を 2008 年 6 月 14 日・15 日に伊豆高原で開催（予定）することを決めるとともに、今回の元気会で呼びかけた「日本の青空」の製作協力のために、『静岡大学学生新聞会元気会 映画「日本の青空」製作・普及を支援する有志の会』を立ち上げて、10 月に会員に「製作・普及への協力をお願い」をして、一口（製作協力券 100 枚分 10 万円）を大幅に上まわる協力を得ることができました。

（文責 事務局丹羽英夫）



## 浅田光輝先生が逝去

1951 年から 67 年まで 16 年間静岡大学文学部で経済学の教授を務められた浅田光輝先生が、10 月 10 日横浜の自宅において「肺気腫による呼吸不全」で逝去された。享年 88 歳であった。16 日～17 日にかけて東京・日暮里の善性寺で営まれた通夜・告別式には静岡大学で先生の教えを受けた同窓生ら 30 人が参列し先生との別れを惜しんだ。

先生は、開学間もない静大文学部に赴任し、日本経済史を中心に経済学の講義・ゼミを担当されたが、小山弘健氏との共著「日本帝国主義史」を著すなど日本の資本主義社会に鋭い批判的精神を持って分析・講義されただけでなく、行動派教授として大学の内外を問わず広く社会的に活動された。60 年安保闘争では時の総評等に請われて改訂反対の講演活動で全国的に駆

け回る活動も勢力的に取組まれた。しかも、スターリン主義的政治手法には早くから批判しながらの活動であった。静大で教職に当たられた間、東京で労働者対象の「中央労働学院」という学校の教員でもあったが、この学校でも一党による学校への支配に反対を貫いたのも先生の学問に対する姿勢を顕わしたものだ。シートンの「動物記」やダーウィンの「種の起源」の

訳者で知られる内山賢次氏の著書「狂信の創造者スターリン」に「思想と政治—スターリン主義について」という解説文を書いたり、プハーリンの説に対して「生産力主義」という批判を一貫して展開され、反スターリン主義を標榜する他の流派とも異なった地平を持論としておられた。また、「全共闘運動」の走りともなった静大寮問題での学生ハnstと学生大量処分を巡って学校側と対立した時、学生を庇って奔走された。静大離任後は東京で立正大学で教鞭をとられたが、破防法裁判の特別弁護人を引きうけたり、浅間山荘の連合赤軍事件では、雪の中を実行者達に行動の慎重さを求める説得に出掛ける（この先生の行動は佐々淳行の本に歪曲されて取り上げられたが）など、行動派学者として面目躍如たるものがあつた。

先生を巡る話題は枚挙に暇ないが、「体制批判者」である前に人道的な立

場で物事を見ておられたということがなんとなく先生を表わす適当な言葉と言えらるだろう。おそらく、「左翼」であろうとなかろうと先生の厚意に触れた方は非常に多かったのではなかろうか。2000 年に状況出版社から出版された自伝「激動の時代とともに」には先生の思いの丈が綴られている。先生の言動は「人間に対する深い信頼と期待」と「人間社会のあるべき姿を追い求める情熱」から生まれていたに違いないと親交のあった柴田裕治さんは弔辞で語られた。確かにそうだったろう。しかし、先生が晩年「今の社会を見るにつけ、僕が取組んできた活動は無駄だったのかなあ」と寂しく語られたのが、いまでも脳裏から離れない。その否定的現実の改革を若い世代に任せたいのだと受けとめたい。先生の御霊の安らかならんことを。合掌

（吉川 駿 = 経済 12 回浅田ゼミ）

## 弘道寺のこと

人文 1 回外史 山口 茂

天城湯ヶ島に弘道寺という曹洞宗のお寺がある。湯ヶ島小学校のすぐ南側の山すそにあり、裏手にはケヤキの大木がそびえている。私は M 君の好意により車でこの 10 月下旬に特別に変わったところもないこの寺を訪れた。天城の山々は少し紅葉しかけるころであった。

今から 40 年あまり前、大学に入学した年の秋に、私は中田・松野という友人と 3 人で、伊豆半島を自転車で旅行したことがあり、旅の初日に泊めてもらったのがこの寺である。泊ったのは本堂の、内陣のわきにある部屋であった。今回訪問したのは、そのときの記憶をたしかめたかったからである。

7、8 段の短い石段を上って門をくぐると右手が庫裏になっている。着いたのは午前 11 時ごろだったか、この日は何か法事が終わったらしく、10 人くらいの人が帰り支度をしているところだった。

玄関にまわって案内を乞うと大黒さんが出てきた。私は、

「実は昭和 38 年の秋に、静岡大学文学部の学生だったときに、これこれという友人と一緒に・・・」

と来訪の理由と、そのときのことを説明した。

彼女は、

「そうだったんですか、さあ、お上り下さい。その部屋に案内しますから」と先に立って私たちの泊った本堂の部屋に案内してくれた。本堂はいくどか火災にあっているが、今のは 18 世紀半ばに再建されたのだが、それからずっと変わっていないということだった。

ひととおり寺のなかを見せてもらってから、私たちは休憩所に招じられ、お茶の接待をうけ、住職や大黒さん（小山町出身という）から寺にまつわる話を伺った。

その一つは、安政 4 年（1857 年）に下田から江戸に向ったアメリカの初代総領事ハリスがこの寺に泊った—それも私たちが寝た部屋に—ということ。

二つ目は、昭和 32 年に天城心中事件というのがあつた。女性は愛新覚羅

慧生（19 才）という人で（旧）満州国皇帝溥儀の姪、男性は同じ大学に学んでいた青森県出身の大久保という鉄道会社重役の息子であった。二人の遺体は事件の 6 日あとの 12 月 10 日に発見された。遺体はまずこの寺に運ばれ回向されたというのである。男性の実家からは、そのときの寺の好意に感謝してその後毎年リンゴが送られてきたという。

二つ目の話はともかく、一つ目については私は疑いをもった。当時の交通事情を考えるとハリスが険しい天城越をしたとは考えにくい。彼は船で江戸に向ったのではないかと。しかし静岡に帰ってからいろいろ調べてみたら、ハリスが天城越をし、引道寺に泊ったのはやはり事実であることがわかった。初めてこの寺に泊めてもらったときは、二つの事実については私たちは何も知らなかった。これらのことを知ったのは今回の旅の大きな収穫であった。

いろいろ話しているうちに、山居という姓のこの住職は静大教育学部の卒業（昭和 53 年）生で、学生時代、大浜海岸に近いところに下宿していたという。昔いっしょに旅行した三人のうち、松野は昭和 49 年の冬に交通事故で亡くなった（このことは私の作品、『輝いていた日々』にも書いた）。彼は 45 年に卒業する前の 1 年間、大谷の海に近い「潮荘」というところに下宿して、私も何回か遊びにいったことがある、という話をしたら、住職は驚いた。彼も学生時代、「潮荘」に下宿していた、というのである。

因縁ばなしのついでに言うと、亡くなった松野の名は弘道（コウドウとよむ）というのである。もうほかの多くのことは忘れてしまっているのに私がいつまでも泊めてもらった寺の名を覚えていたのは、寺名とメンバーの 1 人の名が偶然同じだったからである。私たちの伊豆の旅は宿泊地も何も事前に決めていない行き当たりばったりだったから、たまたま頼みこんだ寺が弘道寺だったということである。

# 熊野古道を歩く(第7回 最終回)

文理9経 小林五郎

10日目 10月17日

6時半起床 7時半朝食

8時、宿を発ち那智大滝に向かう。朝の冷氣漂う中、天空から飛翔する姿に神の存在をみた古人の心情が伝わってくる。早朝で訪ねる人もなく、ただ一人で落下する滝をじっと見つめている。新婚旅行のとき、妻と二人で並んで記念撮影をした場所に立って、滝を見やりながら、あれから35年の歳月が流れ私はすっかり年老いてしまったが、滝は少しも変わらず白く激しく流れ落ちていた。杉の枯葉をはいている老人がその手を休めて滝に見入る。静岡に住む人が毎日霊峰富士を見ているように、この滝の守人も毎日滝を見て人生を過ごしているのだろう。最初、バスで那智駅まで行こうと思ったが、天気も良いし疲れもないので歩くことにした。大門坂の巨大な杉の間を縫って、苔むした参道、いままでの古道とは全く趣を異にした別の熊野古道、王者の貫禄を感じさせる古道が続く。山道の古道が枝花であれば、この古道は幹といえる。入り口に夫婦杉があり、実質この杉の中側から古道になっている。参道にわかれ一般道に入ると、田畑の広がるのどかな田舎道が海に向かって延びている。秋の日差しは柔らかくてほんのり汗ばんでくる。藁を燃す焚き火の煙が山際にたなびいて、煙の向うには昨日越えてきた船見峠方面の山々が見える。野々市まで下ると、左方向に古道の標識が出ているので入ってゆく。上り坂を1曲がりすると大きな墓地にでた。横を通り雑木林の中に入る。細い道が続きやがて小さな将軍塚がある。この辺りを荷坂峠と呼ぶらしいが、峠らしい坂は墓地までのわずかな坂で、後は深い杉林と孟宗竹が混在する平らな道だ。小川が流れ、草深く湿地に近い谷底のような林の道を進む。人の歩いた気配はなく、この道でいいのか少し不安になるが、南に、那智の方向に向かっている。仮に間違っても大きくは違わないだろう。ひんやりした林の道は気持ちよく、これがおそらく今度の旅の最後の古道になるだろう。この道は神様の贈り物だと感謝しながら残り少ない道を歩く。間もなく林を抜け民家のある部落に出たが、入り口には見慣れた空色の古道の標識が立っていて、正規のコースだったことが確認できた。車道を少し行くとすぐに補陀洛寺に着く。本堂の裏手を少し入ったところには平維盛の慰霊碑があるので参拝してから本堂に行く。前庭の右側には展示

室があり、補陀洛舟が再建されているので立ち寄る。舟は縮小されたものだが、舟上には赤鳥居があり、中央に方丈の、板を打ち付けただけの小屋が設けられている。窓もなく薄暗くて狭い部屋の前側にポツリと仏壇が備え付けてある。上人が中に入ると一か月分の食料を入れ、戸が閉められて外から釘打ちされる。外海まで牽引され、やがて外洋に向かって一人旅に出るのだ。これは自殺行為といえるが、信心深い上人は極楽浄土を信じてこうして人生を終えたのである。私には信じがたい信仰心の深さだが、平凡な人生をただらと送るのも一生、太く短く自分の人生の終わりを自分の意思で決める生き方にも一種の共感を覚えるのだが、私にはとても出来ないことだ。本堂前にはこうして補陀洛界に旅立った上人名を刻んだ石碑が建っていて、貞観10年(868年)から享保(1722年)までの25人が列記されている。上人達の魂はきっと極楽浄土にたどり着いたのだろう。私はそう信じたい。補陀洛寺の近くにJR那智駅があり帰路につくため駅に行く。自販機で新宮駅までの切符を買い、次の発車は何時かと時刻表を見て驚いた。先ほどから気にはなっていたが、駅舎の中はがらんどうで人影はないし、ベンチも売店もない。信じがたいが、時刻表には殆ど数字が入っていないのだ。何??? 朝夕の2,3本以外日中は空白。10時の次は午後の2時。10分おきに走っている東海道の時刻表が当たり前前に思っていたから、この現実を前にうろたえる。これでは今日中に帰れない。駅前に一軒だけある店で聞くと新宮行きのバス停が近くにあるとのこと。急いでバス停に向かって走る。バスが来たわけではないが、焦りから思わず走ってしまう。バスは30分おきに走っていて無事新宮に着くことが出来た。でも新宮から名古屋行きの急行は1日6本で、ここで2時間待たされ、午後1時23分発でようやく帰路についた。名古屋からは接続がよく静岡駅に降り立ったのは18時19分だった。

完



## 大学だより

### インターンシップの現状について

インターンシップ運営委員 大橋慶士

現代の社会問題として、若者の職業的アパシーが話題に上っています。そのため各大学では職業観を育成するためにインターンシップ制を導入するところが増えてきました。静岡大学人文

学部も2002年度よりインターンシップをとり入れました。2003年度には26名の学生が、2004年度には社会学科、法学科、経済学科がインターンシップを単位化したことにより一挙に

約2倍の45名の学生が参加しました。さらに単位化2年目を迎えた2005年度には57名が静岡県庁をはじめとする自治体や民間企業で就業体験をしました。インターンシップは将来の進路選択にとって有意義であると参加者は唱えています。この制度も次第に定着しつつあるといえます。2006年度はインターンシップ受入企業の開拓をはかり、前年よりもさらに自治体1、民間企業6社を新たに受入先として加えることができました。

しかしインターンシップに対する受入先の目的も本来の就業体験型のものからリクルート型のものまで様々な形態があること、また完全公募型の受入先も現れたこと、単位の魅力よりも大学主催のインターンシップの手続き的な煩わしさを感じる学生もいるこ

と、さらには学生の希望先が自治体に偏ることなどから、受入先が増加したにもかかわらず、今年度は学部を通してインターンシップに参加した学生は41名と振るいませんでした(説明会に参加した学生は昨年とほぼ同数の190名程度)。今後、学生のニーズの把握とインターンシップそのものの意義を学ばせる機会、説明会の持ち方を検討する必要を感じました。

本年度のインターンシップ先は、静岡県庁、静岡市役所、浜松市役所、沼津市役所、富士市役所、藤枝市役所、静岡県社会福祉協議会、静岡銀行、静岡新聞社・静岡放送、しずおか信用金庫、松坂屋静岡店、NTT西日本静岡支店、ホテル小田急静岡および中小企業家同友会加盟の県内中小企業14社となっています。

## 学生たちの地域連携

言語文化学科 日本アジア言語文化コース 助教授 小二田誠二

「アップレ講座」の成果が、少しずつ形になって現れてきています。前にお知らせしました、「情報意匠論」の授業から生まれたスーパーもちづきさんの一面広告は、今年度の静岡新聞広告賞の、大賞と読者賞銅賞をダブル受賞するという快挙を成し遂げました。また、「静岡の文化」では、11月の日本近世文学会での展示や日曜の昼食弁当(これも、スーパーもちづきさんとのタイアップ)作成などで、来場者から非常に高い評価をいただきました。天晴れ門前塾も第2期が始まっていま

す。昨年度と「組長」を一新し、他学部・他大学の学生達とも連携しながら地域社会を巻き込む大きな企画に発展しようです。

こうしたニュースは、明るい話題を提供していると思っておりますが、直接関わっているごく一部の人たち以外のご協力は得られていないのが実情です。人文学部の地域連携、という視点からも、今後、いっそうのお力添えをお願い申し上げます。

## 地域と大学の架け橋としてのOHYAプロジェクト

人文学部法学科教授 日詰一幸

静岡大学は大谷地区にキャンパスがありますが、その周辺地域はどうも「大学のまち」としてあまりにも賑わいに欠けるのではないだろうか?このような素朴な疑問を持ったゼミの学生達は、それまで学んできたNPOの知識を活かして、地域の賑わいを生み出すためのプロジェクトを進めようと立ち上がりました。それが、OHYAプロジェクトの誕生です。それは、2003年の秋のことでしたから、もう2年半あまりが過ぎようとしています。

2004年になってから、大谷地区を変えていくための提案をいくつか行い、その中から実現性の高いものをいくつか実行してみようと動き出しました。しかし、それを行っていくためにはこのプロジェクトの存在を大学に伝えることも必要です。そのため、学生達はキャンパスに設置されたオピニオンボックスに意見を提出することに

よって大学側と関係を持つことに成功しました。そして、今では商工会だけではなく大学もこのプロジェクトの良き理解者となっていただいています。

これまで、地域の人々にとって静岡大学はとても遠い存在だったようです。その垣根を少しでも低くし、双方がお互いに親しくなり、大谷地区が抱えている様々な課題や問題を一緒に解決していく仕組みはとても大切なものではないでしょうか。私たちはこのような仕組みが機能することによって、この大谷地区が「大学のまち」としてより活性化していくのではないかと考えています。その担い手としてOHYAプロジェクトはこれからも様々な活動を続けて行きたいと考えています。今後も皆様のご支援をよろしくお願い致します。

## 私の学生生活

社会学科日本史学コース 4年 高山 直樹

四年生も後期になった今、改めて大学生生活を思い返してみると、これ程充実した四年間は今までなかったように思う。ここでは私の過ごした学生生活を簡単に振り返りたい。

入学したばかりの一年時は、大学で

の学問がどのようなものか分からず、戸惑ったことを覚えている。初めて耳にする学術用語・研究者、高校までとは異なった授業形態から、授業の内容がつかみきれないことも度々であった。またレポート、人前での発表、討

論なども、私にとってはほとんどが初めての経験であった。しかし、迷いながらも様々な分野の先生・授業に接したこの時期は、見聞きするもの全てが新鮮で、大学で学ぶことの面白さを徐々に感じていった時間だった。

二年生になると専門のコースに分かれるが、私はかねてより目標としていた日本史学コースに進んだ。以後、古文書・漢文史料・学術論文を用いての本格的な日本史学の学習が始まる。また、同様に興味があった考古学の授業にも参加させてもらい、石器や土器を手にとって学ぶ機会を得た。こうした経験のなかで、私は特に本物の史・資料から情報を引き出して歴史を学ぶことに楽しみを見出すことができた。他にも研修旅行に参加し、歴史の現場を実際に歩くことで、知識・技術の獲得だけでなく、歴史を体感することの大切さも学んだ。

三年生ともなると、立場は一転して研究室運営の中心となる。とりわけ思い出されるのは古文書展である。古文書展は日本史学コースの恒例行事で、私たちの年には三十四回を数えていた。折しも日本史学研究室五十周年の節目に当たり、当時は大きなプレッシャーを感じたものだった。準備で研

究室に夜遅くまで残るのは日課のようになり、気が付けば次の日になっていたこともある。しかし、史料読解・パンフレット作成・展示・解説の一連の作業を無事終えたときの達成感は一入であった。また、成果を学外に出て発表する機会もあり、自分たちの学習成果を地域の方々に楽しんで見てもらえることに学びの新たな喜びを味わった。

そして四年生になってからは、卒論、将来の進路の準備、教育・博物館実習の日々である。これらはいずれも学生生活の集大成であって、今まで身に付けたことをもとに、独力で立ち向かわなければならない。そのため困難なことばかりで、私自身何度も投げ出したくなることがある。ただその都度、先生・友人など周囲の人々の指導・アドバイスを励まされ、ここまで来た。常に何かに追われていたため、気付いたら現在に至っているというのが実感であるが、一年時からの小さな積み重ねは、私を成長させてくれたのではないかと思う。そんな私の大学生生活も残りわずかになった。一日一日を大切に、悔いのない学生生活であったと言えるようにしたい。

## 就職活動体験記

法学科 4 年 杉山由紘

第一志望の企業から内定が決まった今就職活動を改めて振り返るととても私にとって良き経験でした。私が就職活動を本格的に始めたのは年明けの 1 本の電話からでした。「一週間後 A 会社の説明会があるけど一緒に行かない？」というものでした。A 会社は静岡県では一番受験生が多く、人気が高いため、記念受験に受けてみようと思い、行くこと返事を返しました。しかし、既にその日の予約は終了しておりリクナビでは既に 3 千人近く応募があり、就職活動の大変さを感じました。しかし当日アポなしで訪れてみると快く受け入れて頂き、共に説明会に参加することができました。しかしやはり人気が高いだけあり関東からの大学生が多くその人の多さに尻込みしてしまいました。当時の私はネクタイの締め方もわからず、髪の毛はボサボサのため一人だけ取り残された気持ちでした。しかし、説明会を通じ私ならこの就職活動に勝てるのではないかと思いました。就職活動に対する気持ちは皆同じではあるが、強い気持ちがない。真剣そうで、目には訴えるものが伝わって来ないし、どん欲さがないことに気付きました。目立ち過ぎることは決して良いことではないが、就職活動において意味を履き違えなければ必要なことであると私は思いました。志望動機は所詮似たようなものしか提出されないのであるから、人一倍情報収集を行い、

## 就職活動を終えて

人文学部言語文化学科 欧米言語文化コース 4 年 後藤麻衣子

就職活動は、企業へのエントリーから始まりました。様々な分野に興味があったので、銀行から新聞社や物流まで、多くの業界の企業説明会へ行きま

した。東京へも足を運び、2 月には活動が本格化しました。しかし、自分の大きな問題は、興味がある分野は多くあるものの、本当に「これがやりたい！」

というものを持ってずにいたことでした。3 月には筆記や面接の選考が本格化し、3 月末に一社の内定をいただきました。一方で、本当にやりたい事は何なのか、常に迷い、考える時期は続いていました。明確な方向性を持ってないまま、選考に臨むうちに、次第に焦りが生じるようになってきました。企業の集団面接で、説得力ある考えを述べる同期の就活生を見て、自分は遅れているのでは、という思いから自信を失うようになっていたのです。当然ながら、自負を持たない言葉には、企業側の心も動かされるはずがないため、なかなか結果の出ない時期が続くようになりました。

しかし、その中で支えとなったのは、自分をよく知る家族や周りの人たちが、「自分に自信を持ってやりなさい」と言ってくれたことです。そこで気持ちを改め、やはり、やりたいことをきちんと突き詰め切れていないことが、自分の中で問題になっていると思い、さらに掘り下げる作業をすることにしました。今まで自分が、作曲や発表会など、創作や表現に関する分野に力を注いできたことや、仲間と切磋琢磨する吹奏楽部や空手道部で取り組んできた経験から考え、広報や営業の職種で最も力を活かせるのでは、と思いました。また、英語・中国語の力を高めようと努力してきたことから、国際的に事業を拡げている企業に携わりたいと考え、国際展開をしている成長企業に的を絞るようになりました。会社訪

## 私の留学生活

経済学科 3 年 張宇

10 月 28 日、この文章を書いている今日は私にとって特別な意味があります。今日は私の 23 歳の誕生日です。今からちょうど 4 年前、高校を卒業したばかりの私は期待と不安を胸に抱えて故郷の青島を離れ日本にやって来ました。私の人生の新たな一章がそこからスタートしたのです。日本に来てから 1 年半の間は京都の言語学院で日本語を勉強し、その後、静岡大学に入学しました。

4 年間の留学生活は私を精神的に成長させてくれました。以前の私は何でも両親にやってもらうわがままな子供でしたが、今では何でも自分で出来るようになりました。すこし大袈裟かもしれませんが、生まれ変わったように私を大きく成長させてくれたと思います。初めての一人暮らし、初めてのアルバイト、私にとっては初めての経験ばかりでした。寂しくて母国に帰りたくてたまらないときもありました。金魚目になるほど何度も何度も涙を流しながら自分の力で困難を乗り越えてきました。この道は自分の意志で選んだもの、最後まで自分の力で歩きたい。逃げることなく、どんな困難に直面しても絶対に諦めると言わない。大丈夫、私ならきっとできるといつも心の中で自分を励まして頑張ってきました。あの日から 4 年が経ちました。

留学生活は大変ですが、私は今とても充実していて幸せな気分一杯です。私には優しい先生達と仲の良い友達がいるからです。私の周りの皆が支えてくれています。

問をしたり、実際に社員の方の話を聞いたりする事を通して、業界研究や企業研究も深めていきました。面接時には、自分の納得のいく志望動機を述べ、堂々と自分の意見を主張するよう心がけるようになったことで、選考も順調に進むようになりました。就職活動の中では、周りの人達と話し合うことで、気づいた事や学んだ事が多くあったと感じます。

就職活動では、単なる憧れで受けた程度では、決して良い結果は出ないということを身に染みて感じました。面接等で、自分なりの視点を持って意見を述べるためにも、企業の課題や求めるものを理解し、自分が活かせる力を考え、志望することに納得できている状態で臨まなければいけない、ということがよくわかりました。先輩達から伺った話のように、「必ずしも順調には行かないが、粘って続けていけば必ずいい結果につながる」ということも実感しました。私自身も焦る時期がありましたが、最終的に自動車業界の企業で、希望の内定をいただくことができました。就職活動で多くの企業と出会い、社員の方々から仕事について直接話を伺ったことは、これから社会に出てからの大きな糧になると考えています。これからも、自分が静岡大学で学んだことを活かし、社会人として活躍できるよう日々励んでいきたいと思えます。

「あなたは日本の事が好きですか？」とよくこんな質問をされることがあります。「はい、私は日本の事が大好きです」といつもこんな風に答えます。もちろん、嫌な思いや日本のこういう所が嫌いだと思う時もありましたが、それを上回るほどに素敵なのがたくさんありました。雨の日に傘を忘れた私に自分の体の半分を雨でぬらしながらもしっかりと傘をさしてくれた 90 歳のおばあさんがいました。「大丈夫ですか？」と言われた瞬間、私の心は溶けました。静岡に引越して来たばかりの時、事務所の先生方二人は私の重い荷物を汗を流しながら運んでくれました。私はそのやさしさを今でも覚えています。私は一人ではないです、私のそばにはこんなにも思ってくれる人がたくさんいるのです。私達の周りには愛がいっぱい満ちています。互いに互いを思いやることでこの世界はこんなにも素敵に感じられます。私もみんながくれたこの愛の中で暖かい感動と幸せを感じたのです。

その愛はすでに私の原動力、私の勇気、私の信念となり今の私には怖い事が一つもありません。日本での留学生活は私を成長させただけでなく、人と人の間の愛について深い理解を与えてくれました。私は心から日本の事が好き、私の留学生活が好きです。最後に自分の気持ちを表すために恥ずかしながら勝手にセンテンスを作ってみました。幸福満世間、世間満真情！愛はすべて、すべては愛！

# 書籍紹介

## 『近代日本における社会変動と法』

牛尾洋也・橋本誠一・矢野達雄・居石正和・三阪佳弘著(晃洋書房,2006年)

もうずいぶん昔のことのような気がするが、司法制度改革や法科大学院設置構想が全国的に議論されていた頃、その議論の帰趨が従来の法学研究・教育の在り方を大きく変えるであろうことは容易に想像された。そうしたなか、私たち法制史の研究者仲間は、従来の法制史学の在り方についても見直すべき必要性を感じていた。そうした問題意識を背景に、膨大な大審院判決(とくに民事聯合部判決)を“歴史資料”として分析するという課題に取り組ん

だ成果が本書である(同様の問題意識を共有するものに、橋本誠一著『在野「法曹」と地域社会』法律文化社、2005年、がある)。出来上がったものを読み返してみると、「まだまだ宿題が多い」と感じざるをえないが、それだけにご一読のうえご批判・ご教示を頂戴できれば幸いである。なお、本研究は、龍谷大学社会科学研究所の研究助成(2002年度から04年度までの3年間)と出版助成を受けた。

## 『Prosody and Syntax:Cross-linguistic Perspectives.』

Y. Kawaguchi, I. Fonagy and T. Moriguchi(eds.) 2006. John Benjamins. 381pp.

森口恒一

この本は、東京外国語大学の21世紀COEプログラム「言語運用を基盤とする言語情報学拠点」プロジェクトの研究報告の一環として、オランダのJohn Benjamins Publishing Companyから出版された全6巻の第3巻目になるものである。編集者は、かつて静岡大学人文学部のフランス語学の助教授であった、このプロジェクト全体の責任者でもある川口祐司さんとハンガリー・アカデミーのFonagyさんと森口が編集したものである。

このシリーズは、「言語運用を基盤とする言語情報学」というタイトル

で、言語教育と言語学を有機的に結びつけるという目的で、関連する分野の論文を集めたものである。第3巻は、「韻律体系と統辞論」(Prosody and Syntax)というテーマのもとに種々の言語を分析していて、基本的には、音響音声学的な分析と文法の関係を論じているものばかりである。森口が執筆した論文は、フィリピンの国語であるフィリピン語(タガログ語)の前倚小詞(Enclitic Particle)を統辞論と音響音声学の両面から考察したものである。

## 『市町村合併と自治体の財政』

川瀬憲子(自治体研究社,2001年)241頁、2000円+税

「平成の大合併」をめぐる政治経済的背景とそれが市町村財政や住民サービスに及ぼす影響を、具体的事例を用いながら実証的に明らかにした書である。地方分権と市町村合併に関する理論、歴史にもふれながら、「明治の大合併」や「昭和の大合併」との相違点を浮き彫りにしつつ、「平成の大合併」

がどのようなメカニズムで推進されたのかを解明している。特に焦点がおかれているのは、1999年合併特例法改正以降の地方交付税を用いた政府による財政統制と財政誘導であり、住民自治の視点から半強制的市町村合併のもたらす問題点を浮き彫りにしている。

## 『地方交付税の改革課題』

重森暁・関野満夫・川瀬憲子(自治体研究社,2002年)191頁、1700円+税

現在、地方財政の要ともいえる地方交付税が大きな岐路に立たされている。地方自治体の長期借入金残高が200兆円を突破し、交付税借入金残高もまた急増の一途を辿っているためである。本書は、地方交付税の意義、

基本的仕組み、構造的課題点を明らかにした上で、廃止論を含む諸見解を批判的に検討し、都市と農村の関係や市町村合併にも焦点をあてながら、その改革課題を明らかにしつつ、交付税のあるべき姿を示したものである。

## 『受精卵診断と生命政策の合意形成——現代医療の法と倫理(下)』

翻訳 川瀬憲子(松田純監訳、知泉書館、2006年11月刊)4,500円+税

ドイツ連邦議会に設置された「現代医療の法と倫理」審議会の答申(2002年5月)の翻訳。

体外で作られた胚細胞から遺伝形質と染色体異常を調べる受精卵診断の倫理的・法的諸問題を多角的に考察し、生命倫理・生命政策に関する合意形成

の道を総合的に検討。

上巻『人間の尊厳と遺伝子情報』(2004年7月刊)と合わせて、現代医療をめぐる生命倫理問題を包括的に展望できる。

## 『日本の着床前診断——その問題点の整理と医学哲学的所見』

児玉正幸(人文5回卒)著(永井書店、2006年9月)1,890円(本体1,800円+税)

本書は、日本の着床前診断による受精卵の選別の試みに関する問題点を、医学哲学的視座(倫理的・法学的・医学的・社会的4つの総合的視点)から整理するとともに、その臨床適応の是非について考察する。

【目次】

はじめに一わが国のPGD(着床前診断)の歩み

第1部 受精卵の選別とヒトの尊厳—鹿兒島大学医学部の試み(患者の権利—臨床医療現場の患者と医療者のために;高度先端医療とヒトの尊厳—医学哲学的視点 ほか)

第2部 PGDの臨床適応—大谷産婦人

科の試み(PGDは「障害者への差別を助長する」のか—PGDと優生思想;「医学的理由」に基づいた大谷医師のPGD—問題点の整理と医学哲学的所見)

第3部 わが国のPGD所見—問題点の整理と医学哲学的所見(前胚(preembryo)と胚(embryo)

「ヒトの生命の始まり」とPGDの法的倫理的妥当性 ほか)

第4部 まとめと展望(まとめ—産婦の最新動向;展望—海外のPGDの現状(臨床適応症例、有用性、問題点))

## 『アウグスティヌスの恩恵論』

金子晴勇(文理4卒)著(知泉書館、2006年2月)価格5,880円(本体5,600円+税)

パウロを源泉とする<恵み>が恩恵論へ形成される全貌に迫る。

【目次】

序論 アウグスティヌス時代の状況について

I 初期の著作における自然と恩恵

II 中期の著作における自由意志と恩恵

III ペラギウスとペラギウス主義者たち

IV ペラギウス派論争の経過

V ペラギウス派論争の発展

VI セミ・ペラギウス主義との論争

VII 罪と恩恵の教義

VIII オランジュの教会会議に至る論争の経過

IX 恩恵論の中世における展開

X 近代思想における批判的受容

結び

## 『育児のジェンダー・ポリティクス』

船橋恵子(勁草書房2006年5月刊)261頁 ¥3300+税

今日、対等な男女関係を望むカップルが増えているのに、育児を通じて男女の不平等が生み出されるのはなぜかというテーマで、新規書き下ろしの学位論文を出版しました。私は、ジェンダー秩序とそれに抗して平等であろうとする諸実践を、ミクロなカップルの主体的戦略的行動とマクロな社会政策との絡み合いの中で解明することをめざして、比較社会学的変動論の立場から研究を進めています。本書では、日本・フランス・スウェーデンでインタビュー調査を行い、「夫婦で育児」の

通文化的4類型を抽出し、「平等主義」タイプへ変化していくプロセス、世代間の変動、そして社会政策と家族戦略との循環的相互規定について分析しました。男性も「ケアをする人」へと人間復権していくこと、男女に短時間正社員的な働き方の可能性を保障すること、すべての子どもの豊かな育ちのために短時間保育・教育を保障することが、これから必要なことではないかと思えます。

## 『白居易研究 閑適の詩想』

埋田重夫著(汲古書院、06年10月30日刊)A5版上製函入390頁 10500円

白居易の文学は、時系列的な文学史でみた場合、いわゆる新楽府運動に象徴される諷諭詩の存在によって高く評価されることが多い。社会や制度の矛盾・不正・不条理に対して、諫官という公的な立場から鋭い批判を加える諷諭詩は、確かに青年官僚として活躍した前半生の著作にあって、大きな比重を占めている。しかしより白居易的な詩の世界は、一生にわたって間断なく詠われ、人生の蹉跎・辛酸を十分に体験した後半生から一気に開花する閑適の文学にこそある、と判断される。江州司馬への左遷を一大契機にして、諷諭詩制作への情熱は凋み去り、かわって「抒情の器」「賦活の具」としての閑適詩が、加齢とともに次々と量産されるようになるのである。この閑適詩の世界では、自他の生・老・病・死が熟視検討され、「処世の理」「生命の理」「生活の理」が徹底的に追究さ

れている。情と理が交差する白氏独特の詩興は、このジャンルの作品において一層著しい。本書の執筆は、白居易の文学原理や生活原理の根幹・しなやかな自己矜持を具えた自適(儒家的な独善と道家的な自足)の境地-を形成すると考えられるこの領域を集中的に考察することで、従来の研究史上に新たな地平を切り拓きたいとの動機に基づいている。『白居易研究 閑適の詩想』と命名する所以である。閑適の詩想を中核にしてこの文人官僚を体系的に論じた学術著書は日中で未だ一冊も上梓されていないだけに、全体を通じて独自の新しい白居易像を呈示できたのではないかと考えている。

# 映画『日本の青空』製作・上映にご協力を!!

## 日本国憲法は、鈴木安蔵先生たちの手で土台が作られた

去る7月25日、大澤 豊監督を迎え、全国に先がけて映画『日本の青空』の製作・上映を支援する「静岡の会」が発足しました。

その席で、みなさんのご推挙により、私が代表世話人をお引受けすることになりました。

私がこれをお引き受けしたのは、次の理由からです。

まず第一に、鈴木 安蔵先生が静岡大学を定年で退官（昭和42年3月）されるまでの最後の4年間、私は先生と同じ学部・学科（文理学部・法経学科）の同僚として、静大時代の先生を直接知っているいまや数少ないひとりだということです。大学院を出てすぐの昭和38年、私が静大に赴任した当時、鈴木先生はすでに学部の重鎮として、また日本を代表する憲法学の著名な学究として活躍されていました。若い私にはとても近寄り難い、仰ぎみるような存在でしたが、学部の会議や学科の談話室などで、先生のお話や振舞いにじかにふれる中で、私は大学の価値や研究者としての精神性といったものをしぜんに学んだように思います。鈴木先生はその背中で、私に大学人としての矜持を教えてください、とても大きくかけがえない存在であったということです。

二つ目は、私の世代は国民学校の第一期生だということです。日本が太平洋戦争に突入り、学制改革でそれまでの小学校が国民学校に変わった年です。1年生から敗戦の年の4年生まで、修身教科書や教育勅語、皇国史観によって徹底した軍国主義教育を叩き込まれ、天皇を、神国日本を統べる現人神と信じ込まされた中で、私は鬼畜米英を憎むいっばしの軍国少年に育っていました。ところが、敗戦によって一転、戦時中の教育がすべて否定され、こんどは墨塗りされた教科書や『くにのあゆみ』、『新しい憲法のはなし』などで戦後の民主主義教育を受け、平和

で民主的な国づくりの価値に目を開かされました。いまから思うと、昭和20年8月を境とした国全体の価値の逆転は、幼心にも衝撃的であり、それだけに戦時中の教育は私の中では許しがたい痛恨事でした。そして戦後のそれは、私の魂をいざない、今日にいたる精神的成長を育んだ命の源でした。だから、戦後日本の復興・再建と成長を強く支えた、平和主義、民主主義をくつがえす憲法改悪の動きは、私じしんの精神史・魂の否定であり、とても容認できるものではありません。

そして三つ目は、明治の半ば頃、じつは私の祖父母が、鈴木先生の生まれ故郷・小高町のすぐ隣の原町から北海道にやってきたことです。今年4月、小高町は原町と合併して南相馬市になりました。そして私も、この4月から福島大学の監事としてしばしば福島に出かけることもあって、7月下旬、小高町にある鈴木先生の生家をお訪ねし、先生の亡くなられた甥のご夫人とそご長男に、先生が子供のころ勉強された蔵の案内や、思い出話を聞かせていただくことができました。奇しき縁というほかありません。

憲法をめぐる今日の厳しい状況の中で、今この映画を成功させることの意義を痛感しています。みなさんの大きなご協力と渾身の取組みを期待しています。

（前静岡大学長）



### 「静岡の会」の発会によせて

## 憲法を魂の源として

代表世話人 佐藤博明

## 大澤監督ら招き、支援する会が発足(7/25)



大澤豊監督

代表世話人に  
佐藤博明氏  
（前静岡大学長）  
を選出。

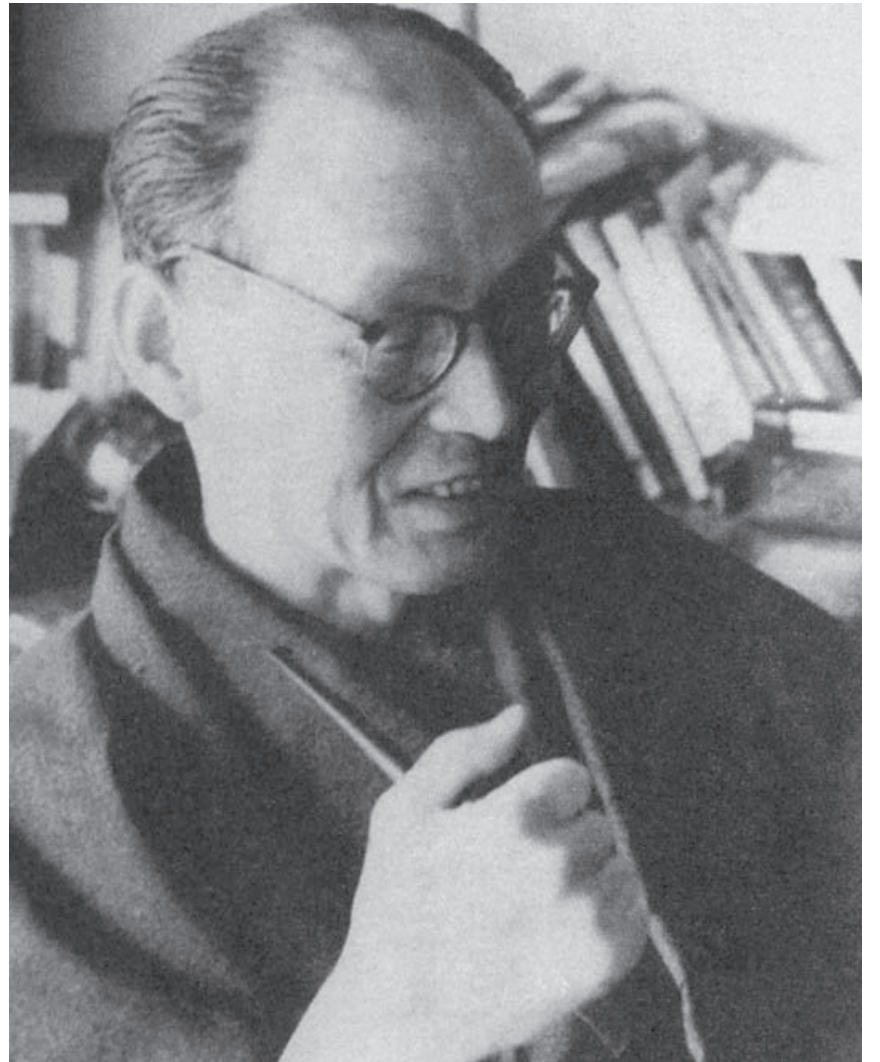
7月25日、映画「日本の青空」を支援する静岡の会・発足の集いが、県教育会館会議室にて開催された。当日、県内から約30名の参加者を前に、大澤豊監督、小室祐亮プロデューサーから今回の映画製作の経緯、企画意図、意気込み等が話された。

また、鈴木安蔵氏との人的交流の深い静岡県が、全国に先駆けて「支援する会」を立ち上げた点に期待する旨発言があった。

続いて呼びかけ人の上田克巳氏から「会」の支援活動や組織、方針等が提案

された。その後活発な論議を経て、「会則骨子」が確認された。

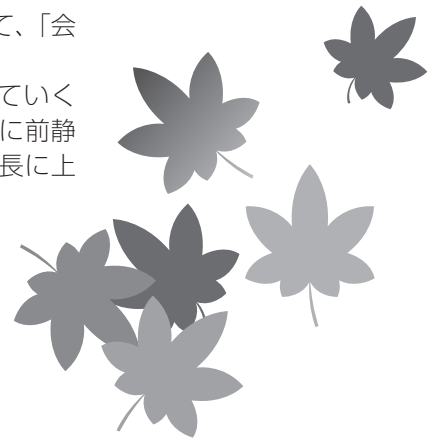
また、「会」を実際に運営していくための役員として、代表世話人に前静岡大学長の佐藤博明氏、事務局長に上田克巳氏らが選出された。



故鈴木安蔵氏（1904生～1983没）

### 「会」発足に至る経過

- 昨年末に企画決定。監督に大澤豊氏決定。シナリオ第一稿が東京の製作元から全国の配給社に配布され検討したが、「内容が硬くて難しい」などの意見が多数寄せられた。
- 今年に入り、規模の大きさから静岡県では全国的には異例の2社での共同配給に決定。  
3月、県内の支援する会結成に関し、小沢、三橋、上田、鈴木毅ら各氏に意見を聞く。
- 4月、東京にて全国の配給社の会議が行われる。改訂されたシナリオについて「前よりかなり分かりやすく読みやすくなった。」との意見が多数あり。（その後さらに改訂され、決定稿が完成）
- 5月、憲法会議主催の集いで製作チラシ配布。当日小沢さん、上田さん、栗田翠さんらが鈴木安蔵氏に関して発言、関心が高まる。
- 6月、目標を達成するためには県全体で支援する会を作ることが必要と結論。7月6日に準備会開催。
- 7月25日、監督らの出席により県庁内で記者会見。その後、団体表敬訪問を経て、当日夜に「会」の発足の集いが開催される。





☆主要キャスト決まる!!



・鈴木安蔵 = 高橋和也

《男闘呼組》としてデビュー。88年12月レコード大賞新人賞受賞。93年12月解散後、ソロコンサートで活躍。現在、CD制作および、都内ライブハウスにてLIVE活動展開中。役者としても、TV、舞台、映画に出演。

- 主演映画 「ロック世静かに流れよ」主演 「八つ墓村」 「出口のない海」など多数。



・鈴木敏子 (安蔵の妻) = 藤谷美紀

87年に開催された第1回「全日本国民的美少女コンテスト」でグランプリを受賞し芸能界デビュー。現在は女優としてドラマや、舞台、映画を中心に活躍しています。最近では「草の乱」の井上伝蔵の妻・コマ役を演じています。

- ・高野岩三郎 = 加藤剛 憲法研究会の中心メンバー。
- ・白洲次郎 = 宍戸開 内閣終戦連絡事務局次長。

・中山沙也可役については16日前後に決定するとのことでした。

☆11月5日にクランクイン

撮影スケジュールは以下のように決まりました。

- 11月5日にクランクイン。11月一杯はロケ撮影となります。主なロケ地は、小高、深谷、水戸、静岡です。
- 12月に入り、東映撮影所においてセット撮影に入ります。12月20日にクランクアップの予定。
- 年明けから仕上げにかかります。1月10日から2月10日までの1ヶ月間。2月末に完成予定。

3月に完成試写会予定

☆筑紫哲也の《NEWS23》に登場するか？

政策委員会事務局《NEWS23》のスタッフより、11月3日(祝)の番組で取り上げたいとの申し入れがありました。折りしも、今年の11月3日は、日本国憲法が公布されて60周年の節目にあたります。決定次第お知らせいたしますので期待してお待ち下さい。また、先に、鈴木安蔵の生誕地である福島県小高町、また大学で教鞭をとった静岡では、早く出演者を教えてほしいとの催促が入っています。いずれにしても、劇映画ということで、マスコミの注目度も高まっております。

☆スタッフ紹介

- ・監督 / 大澤豊 (GAMA 月桃の花)
- ・助監督 / 山本亮
- ・撮影 / 丸池治 (眠る男)
- ・照明 / 山川英明 (丸池さんとのコンビ)
- ・美術 / 丸山裕二

映画『日本の青空』の製作にご協力ください

戦後60年を経て、にわか改憲の動きが激しくなってきました。そんな中、映画人9条の会のメンバーでもある大澤豊監督が、憲法改悪に真っ向から反対する立場で、本映画の監督としてメガホンをとります。

この映画は、製作費用2億円を、製作意図に賛同する全国の方々から1口=10万円を募って作られる自主制作映画です。現在、各県レベルで製作資金を募集する運動の輪が広がっています。静岡県では7月末に「支援する静岡の会」を結成し、全国目標を超える100口を集めようと運動をすすめ、現在個人団体合わせて60口に到達しました。

しかし製作支援運動の期日はあとわずかになりました。まだまだ目標には到達していません。これまで鈴木安蔵氏と静岡大学に関係のある方々が先頭に立って奮闘してきました。今回さらに運動を広げるために、鈴木安蔵先生ゆかりの静岡大学同窓生の皆様にもぜひご協力いただきたくお願い申し上げます。つきましては、振込み券(青色・人文5回以前の方のみ)を同封しましたので、それにて御送金下さい。1口とは申しませんが、皆様のお気持によるカンパで結構ですので、よろしく願います。

(「日本の青空」を支援する静岡の会)

【「会」活動資金カンパのご送金先】

口座番号 00800-0-94253
加入者名 株式会社 静岡教育映画社

終身会費納入のお願い

副会長 落合康彦

- ・納入用の郵便振替用紙が同封してあります。
- ・納入済みの会員には、岳送付用の封筒に貼られた宛名シールの会員コード(明朝体、斜体)の最後にPマークが入っております。Pマークが入っていない会員が未納ということです。ご確認ください。例:1234S58P

個人情報保護

会員の大切な個人情報は、当同窓会の活動以外には一切使用致しません。第三者に開示・漏洩することは一切ありませんのでご安心下さい。尚、会員データベースからご自分の個人情報データの削除をご希望される方は、下記の『変更データ個人票』またはホームページ『www.gaku.org』から事務局までお申し出下さい。

会員の皆様へお願い

次の場合には必ず、「変更データ個人票」を同窓会事務局までお送りください。

- ・転勤、引っ越し等により、住所が変更になったとき。
- ・自宅の電話番号が変わったとき。
- ・結婚等により、姓が変わったとき。
- ・勤務する会社等が変わったとき。
- ・その他会員名簿の記載事項に変更が生じたとき。

静岡大学文理・人文学部同窓会事務局

〒422-8529 静岡市駿河区大谷836 静岡大学共通教育A棟 TEL・FAX 054-238-5148

住所等の変更は、速やかにこの用紙に記入の上事務局へお送りください。

\*は必ず記入のこと。訂正検索の利便のため、卒業回、卒業年、専攻学科を必ず記入してください。

Form with fields for name, address, phone, and membership details. Includes a table for '変更データ個人票' with columns for date, department, and contact info.